

日	月	火	水	木	金	土
10月				1 (おとなてらこや)	○2 ★おかず亭開催	3
4	5 キャンプ準備	○6 久住山 キャンプ	7 いってきます!!	8 代休	○9 キャンプ片付け しずかな時間	10
11	12 祝日 スポーツの日	13 ミニ はじまりの会	○14 ★(おかず亭開催)	15 稲刈り (おとなてらこや)	○16 ★(おかず亭開催)	17
この週に わらの家キャン プがあるかな!?	19 ひとつのじかん	20 ★(おかず亭開催)	○21	22 修学旅行 プレゼン	○23 優11歳	24
この週に わらの家キャン プがあるかな!?	26 あつおタイム	27	○28 智咲12歳	29 (おとなてらこや)	○30	31

○ おむすび・お弁当の日 (○&緑色の日)

*青字・・誕生日\(^o^)/

*緑字・・てらこやメンバー

☆ 決定! 13日からてらこや22名になります。ユナる るトラ ようこそてらこやへ♪
13日(火)朝の時間、ミニはじまりの会をします。お花を2本持参どうぞいらしてください。

☆ 注意! 今月後半は、お天気で予定が変わります。(稲刈りやわらの家キャンプ・おむすびの日など)

◆♪*...◆♪* キッチンスタッフ 里香さん's essay ◆♪*...◆♪*

てらこやの子ども達、ミーティングが嫌だ、話し合いが長いって、言っていないだろうか? 私はそのミーティングに参加したことはあまりないのだが、お昼ご飯を作りながら、みんなの発言が聞こえてくるし、様子もうかがい知れる。例えばなにかの係りを決める。それをどうやって決めるか? やりたい人が重なった時どうするか? それにいちいち子ども達がアイデアを言う...いや、いつ係り決まるん? また、なにか問題が起こってそのルールを見直すことに。それぞれが意見を言う。簡単には折り合えない。大きい子ども達はいいとしても、小さい子ども達は飽きてきて騒いだりして、別の問題も起こってくる。やれやれ。大人がさっさと決めて、こうするよ! と宣言するほうがどんなに楽か...と、私はいつも1人キッチンで思っている。しかしこれこそが、てらこやなのだ。

夏の終わりに、『聴く隣人のいるところ』という映画を観てきた。私の息子宙が昨年度までいた三重県の実業高校には、国内外に姉妹校がいくつかあるらしいが、その1つが島根県の実業(あいしん)高校だ。その実業の卒業生で、映画監督になっている人が、自分も経験したその独特な高校生活の意味を再確認するために、今の実業の生徒達にカメラを向けてドキュメント映画を撮ったのだ。生徒数は実業の約半分だが、全寮制のキリスト教系高校、スマホ禁止などの制約がある、という点では同じ。ここでもやっぱり、なんでもかんでも「話し合い」で決める。映画では、寮に電気で沸かせる鍋を買うかどうかについて、生徒と先生が真剣に話し合っていた...そんなもんすぐ買ったらええやん、って思いませんか? 話し合いは、本音を出さないと意味がない。そのためには思考を掘り下げないと本当の自分が分からない。また分かっている、それを素直に出せないことも。そこに向き合うのがつらくなるときもあるだろう。映画の中で生徒の1人が、「会話は楽しいけど、対話はもう嫌になってきた」と言っていたのも理解できる。(どこかで聞いたような...)

宙の実業時代の意見発表「光っているのは剥がれ落ちた鎧なのかもしれない」を、覚えてくれる人もいるかもしれない。てらこや卒業後の、中学そして実業での苦しみ、葛藤、そこからの気づきを述べていた。「少人数の限られた密接な人間関係において自分を偽ったままでは生きていけない、自尊心を捨てて、弱い部分を出していくのは怖かったが、その恐怖を乗り越えて、今まで着ていた鎧を外してみても、みんなが受け入れてくれることが分かり、自分を守ってくれていると思っていたその鎧こそが、実は自分を縛っていた重りでもあったと気づいた、自分のままでいられる自由を得たことで、他人のありのままを受け入れられるようになった」そこに聴いてくれる人がいる、否定されずにまずは受け止めてくれる人がいるという安心感があるからこそ、自分の本当の気持ちが話せるのだ。

映画を観ながら、私はてらこやの子ども達のことを思っていた。そして私自身のことを。夏休みも終わり、身体も心もひと回り大きくなった子ども達が目の前にいる。私は「聴く隣人」でいられているか? てらこやは子ども達が鎧を脱いでいられる場所であるか? 問い続けていきたい。